

5. Choledocal cyst の胆道スキャンとその特徴

○伊藤 和夫 篠原 正裕
古舘 正徒
(北大・放)

先天性総胆管のう腫と拡張症の10症例について、DIC, ERCP, Ultrasound ならびに CT 所見と比較し、胆道スキャンの有する特徴に関して報告した。

胆管のう腫の形態診断の重要な所見は、のう腫の存在と、のう腫内への胆汁流入を確認することである。CT 超音波画像は、のう腫存在の描出にはすぐれていた。しかし、のう腫内容物に関しては情報に乏しく、この点、DIC, ERCP, 胆道スキャンの方が確定的な診断情報を提供した。ERCP は、解剖学的把握がより容易であるが、年齢とのう腫の大きさに規制される傾向があった。その点、胆道スキャンは、年齢の規制はなく、特にのう腫サイズが大きければ大きいほど、診断的な価値を有していた。拡張症に関しては、DIC や ERCP の方が胆道スキャンよりは、より診断的価値を有していた。胆道スキャンは、胆汁通過を知ることのできる唯一の検査法として、のう腫内胆汁うっ滞の状態を把握するのにすぐれていた。

6. 肝転移部に ^{67}Ga 摂取を認めなかった悪性腫瘍の2症例

高橋貞一郎 久保田昌宏
大久保 整
(札幌大・放)
佐藤 卓広 足立 謙蔵
(同・婦)

著者らは $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -Sn-colloid hepatoscintigraphy にて欠損が認められた悪性腫瘍肝転移 19 cases につき、肝欠損部に ^{67}Ga citrate の陽性像が得られるかいかにつけて検討を行なった。

対照とした症例は、primary sites Lung 2, Breast 3, Gastrointestinal 7, Prostate 1, Ovary 1, Uterus 1, Other sites 4 の 19 cases で、このうち婦人科

悪性腫瘍 Ovary 1, Uterus 1 の 2 cases 以外は全症例肝欠損部に ^{67}Ga citrate の陽性像を認めた。

また肝転移部位の ^{67}Ga citrate 摂取は一般に primary site および他転移部位に比較して高いことも認められた。

今回著者らは、scintigraph 上 ^{67}Ga citrate の集積を認めなかった婦人科悪性腫瘍 choriocarcinoma of l. ovary, Endolymphatic stromal myosia of utereess の2症例に注目し、両症例につき臨床的考察も加えて検討したので報告する。

7. 耳下腺疾患のガリウムスキャンの検討

小川 敏英 高橋 睦正
玉川 芳春 西口 弘恭
有井 穂積 新藤 雅章
黒川 博之 高橋 栄治
宮内 孝治 斎藤 裕
(秋田大・放)

われわれは、耳下腺腫瘍、腫脹の臨床診断のもとにガリウムスキャンを施行し、その後手術などにて組織診断を確認し得た27症例に関して、ガリウムスキャンと組織診断との相関について検討した。また、同時に施行した $^{99\text{m}}\text{TcO}_4^-$ による唾液腺シンチ、さらには CT スキャンに関しても若干の考察を加えた。

組織診断の内訳は、耳下腺腫瘍が19例で、そのうち良性腫瘍が13例、悪性腫瘍は6例であった。なお炎症は3例、正常耳下腺組織が1例、そのほか耳下腺以外のものは4例であった。

耳下腺へのガリウムの集積の評価は、正常でも集積を認める鼻粘膜と比較して、相対的に、(-), (+1), (+2), (+3) の4段階の grading を行なった。27症例の結果は、良性腫瘍の13例のうちガリウムの集積を示さなかったのは4例で、残りの9例は集積を示し、うち2例は(+3)の高度集積を示した。また、悪性腫瘍の6例のうち、集積を示したのは3例であった。以上のごとく、腫瘍の悪性、良性和ガリウムの集積には相関をみとめなかった。